

AQUARIUS 最先端研究所 ニュースリリース

2006/2/6

お世話になっております。
アクウェリアスと申します。
リリースをお送りしますので、よろしくお願いいたします。

ペーパーライクディスプレイ、3人に2人が「使ってみたい」

電子ペーパー市場、黎明期ながら、100%強の成長へ、5年後、1,000億円を突破

- アクウェリアス調査 -

★電子ペーパー応用システム製品の開発動向と市場規模予測、需要動向に関する調査

- 次世代電子ペーパーの開発動向、モバイルディスプレイの可能性と展望 -



<http://www.aqu.com/e-paper/2006-2.pdf>

ニュース

<http://www.aqu.com/e-paper/index.htm>

調査概要

<http://www.aqu.com/e-paper/contents.pdf>

表紙・目次

<http://www.aqu.com/e-paper/sample.pdf>

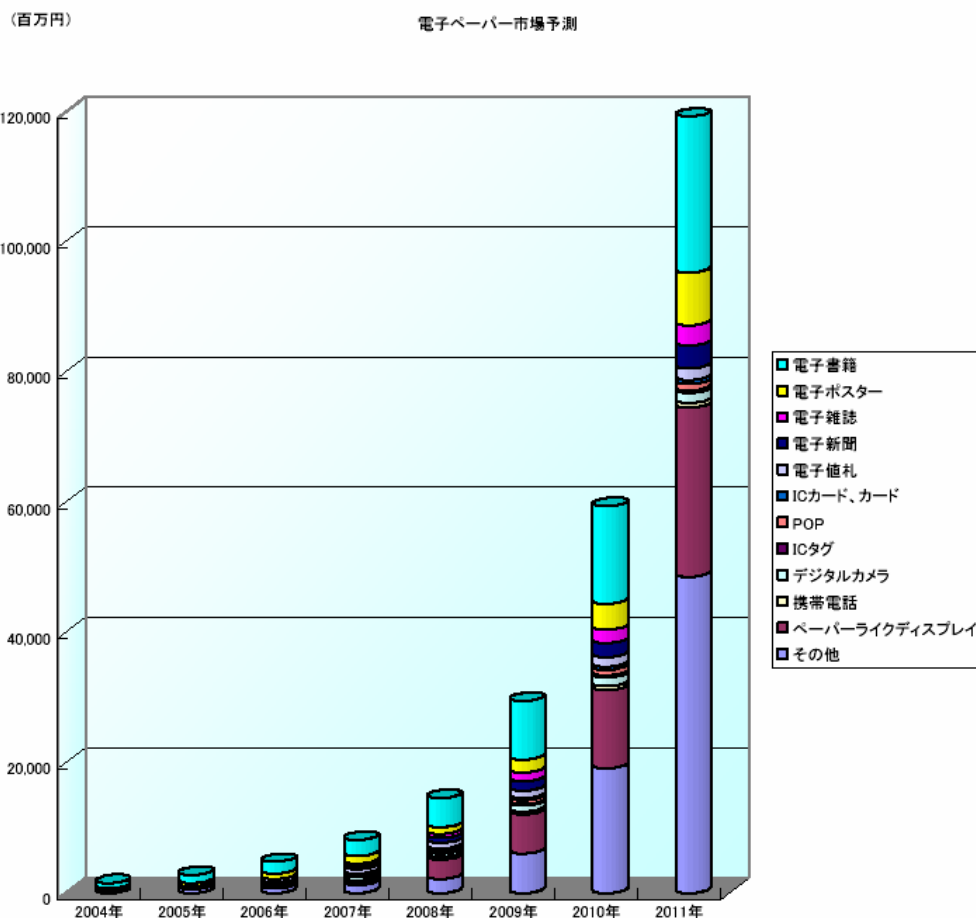
報告書サンプル

<http://www.aqu.com/>

メインホームページ

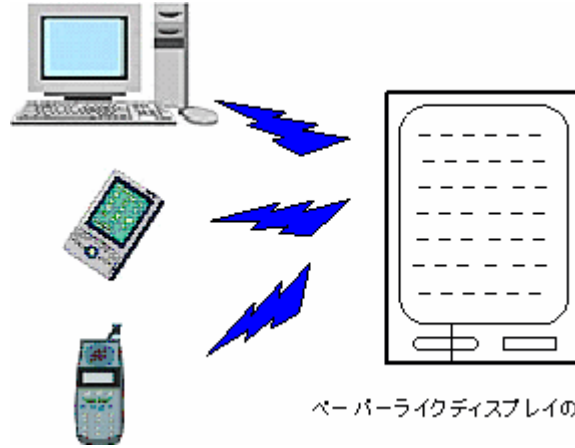
★ このたび、ユビキタス先端ビジネスの調査コンサルティング会社である、アクウェリアス社 (AQUARIUS 最先端研究所) (千葉市中央区、代表、子安克昌)は、「電子ペーパー応用システム製品の開発動向と市場規模予測、需要動向に関する調査 - 次世代電子ペーパーの開発動向、モバイルディスプレイの可能性と展望 -」(マルチクライアント方式)を調査、発刊した。

- ★ 同社によれば、ディスプレイモジュールをベースとした電子ペーパー市場は、現在、30億円規模とみているが、今後、5年間、金額ベースで、年間100%成長をベースとして、110~130%成長も可能であると見ている。



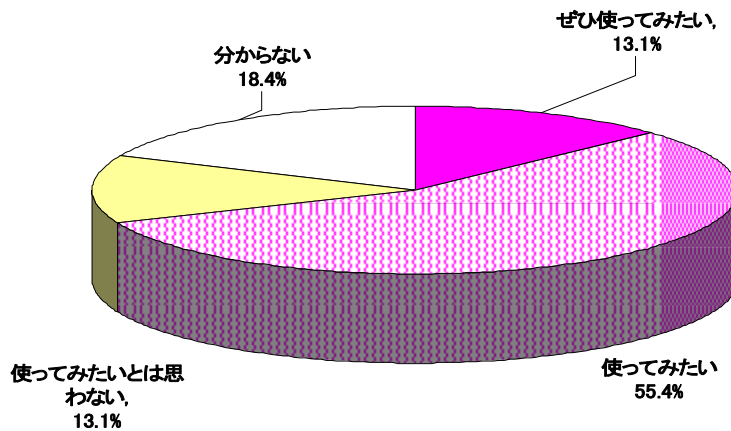
- ★ 現在、一般の関心の多くは液晶、プラズマといった大画面テレビの方に向けられているが、いわば、紙のように薄いディスプレイといわれ、技術的に注目される、電気泳動方式や電子粉流体、また反射型液晶、透過型液晶、有機 EL などを用いた電子ペーパーは、現在市場は黎明期ながら、五年後、十年後の成長期へ向けて、助走段階にあり、カラー化の技術向上などをきっかけとして、需要を喚起しようとしている。今後、電子ブック(電子書籍端末)のほか、POP、電子値札、電車の中吊り広告等において導入が進展してゆこうとしている。たとえば、POP ではアニメーションデザインを採用することで、アイキャッチが高まり、商品の訴求力が高められることで、広告会社などが高い関心を示している。また、PC、携帯電話などと情報連結ができる新たなモバイルディスプレイ、いわゆるペーパーライクディスプレイのアプリケーションも数年内のうちに大きく進展していくものと見ている。
- ★ 今回のアンケート調査では、PC、ケータイと連携するペーパーライクディスプレイについて、「ぜひ使ってみよう」13.1%、「使ってみよう」55.4%を合わせると、68%強となっており、ペーパーライクディスプレイへの関心は高く、三人に二人の割合で「使ってみよう」という希望があることが分かった。(1,000人を対象)

【PC、ケータイ連携のペーパーライクディスプレイの需要度】



ペーパーライクディスプレイのイメージ

【電子ペーパーの需要度について】



電子ペーパーに対する期待として、創造的アート表現など、インパクトのある情報表現に期待する声があるほか、インテリアなど、生活に密着した場面での活用などを期待する声があるなど、用途は今後大きく広がる可能性がある。

★.:.:*.'° ☆.:.:*.'° ★.:.:*.'° ☆.:.:*.'° ★.:.:*.'° ☆★

●「単なる電子ペーパーとしての役割だけでなく、双方向も可能な面も持てば普及率はより高くなると思う。」 (30代、女性、会社員)

●「紙のように身近で豊富で安価なものに比肩できるには、単に紙と同様な情報を掲載できるのでは普及しない。より創造的な表現、アートなどで、まずインパクトのある情報表現を。」(50代、男性、自営業)。

●「生活や趣味、遊びの中に取り入れられたら面白いと思いました。上に物を置くのが可能であれば、ランチョンマットや、センタークロスなど、種類多く使いたいものや、カレンダー、お部屋に飾る絵画のような、インテリアにも使えると面白いと思いました。環境に優しい、という視点で、これからどんどん研究が進んでいくことを願っています。」(40代、女性、パート)

といった意見があった。

【電子ペーパー】

※電子ペーパーとは、紙のように薄くて折り曲げられたりもできる電子的に書き換え可能な新しいディスプレイデバイスの総称。消費電力が少ないという特徴がある。商用化では、電子インクの技術を用いる米イー・インク社の電気泳動方式がソニーの電子書籍端末「LIBRIe」で採用されているほか、時計、ポスター、電子値札などに採用されるようになってきている。電気泳動方式のほか、電子粉流体、また反射型液晶、透過型液晶、有機ELなどを用いた電子ペーパーもある。ペーパーライクディスプレイは、電子ペーパーをディスプレイデバイスとしてとらえる研究の中で考えられてきたもので、モバイルディスプレイとしての用途などに汎用性があるとみられている。



電子ペーパー応用システム製品の開発動向と市場規模予測、需要動向に関する調査

— 次世代電子ペーパーの開発動向、モバイルディスプレイの可能性と展望 —

<http://www.aqu.com/e-paper/>

【企画趣旨】

- (1) 現在の新聞、雑誌、書籍などの紙メディアの流通は非効率的である、といわれている。それは、保管、配送、配達、店頭販売といったプロセスをとっている関係でもあるが、書籍の返品率が40%前後という数字に見られるように、たいへん非効率といわれており、昨今の地球環境・紙資源問題に照らして考えると、社会的にもきわめて大きな問題、課題

- となっている。
- (2) ここにおいて、電子ペーパーが注目される。電子ペーパーは、紙のように扱える新しい電子メディアとしてさまざまな応用可能性がある。軽い・曲がる・書き換えが可能・低消費電力といった特長を活かし、電子書籍、電子新聞、電子雑誌などの他、電車の中吊り広告、湾曲した壁面への情報表示、電子棚札、POP 広告、レストランのメニューなど、幅広い用途が想定されている。
 - (3) 技術革新のスピードは従来の予測以上に進展している面がある。たとえば、富士通研究所、富士通フロンテックなどは電源なしで表示保持をする、カラーで曲がる「電子ペーパー」を開発した。カラーで明るい表示であり、曲げてもにじまない表示であり、かつ電源なしで半永久表示であり、無線で書き換え可能という。こうした注目すべき開発の動きは、他の先進企業各社にも見られ、ここに来て、電子ペーパーの実用化、応用市場は大きく動き始めた、といえるだろう。2004 年には、電子書籍端末が、松下電器産業、ソニーにより発売されており、電子書籍市場は急拡大を続けている。また電子コンテンツも、ケータイ小説などに見られるようにPCダウンロードから、携帯向けへと大きく広がってきている。
 - (4) 電子ペーパーのアプリケーションは電子書籍、電子新聞、電子雑誌、、、というように多岐にわたっているが、ケータイの普及を背景に注目されているのが、ケータイ・ダイレクトプリントである。ケータイ・ダイレクトプリントの今後の市場性は大きいものがあるが、いっぽう、ペーパーライクディスプレイとしての携帯、PCなどと組み合わせた電子ペーパーシステムも注目されている。
 - (5) 当調査では、ディスプレイデバイスとして市場形成が加速されてきた電子ペーパーのアプリケーション市場をとらえるとともに、その市場規模を最新の市場動向をもとに予測する。また、需要家のニーズ、評価もアンケート調査することで、市場を多角的にとらえ、今後の市場展望を鮮明にし、ひいては、関係企業の今後のビジネス戦略に寄与することを目的とするものである。

【調査概要】

1.調査項目	http://www.aqu.com/e-paper/index.htm
2.調査スケジュール	2005 年 11 月 1 日～2006 年 1 月 27 日
3.調査資料費用	詳細 http://www.aqu.com/e-paper/index.htm
4.報告書体裁	A4 簡易製本版 143 頁。

【調査報告書】はじめに

【はじめに】

電子ペーパーは最近、我々の生活の中に入ってきており、目にすることが多くなってきた。2004 年には電子書籍端末が、松下電器産業、ソニーから発売され、電子書籍コンテンツの市場拡大とあいまって注目されることとなった。ただし、最近では若者層を中心に携帯電話での電子書籍コンテンツのダウンロードをする傾向も増えており、今後は専用端末の市場拡大もさることながら、情報機器とのリンクを想定した、巻物型やシート型の電子ペーパーをはじめ、さまざまな場面で、新たな電子ペーパー需要が拡大してゆくものと考えられる。

それを裏付けるように、今回の調査でビジネスマンを中心にアンケート調査を実施したところ、P C・ケータイ連携のペーパーライクディスプレイに対して回答者の2/3が強い関心を示していることが分かった。

今年は冬季オリンピックの年であり、何かと液晶やプラズマなどの大画面テレビに関心が集まりやすい今日であるが、ここに来て、各社の電子ペーパーのカラー化の進展や、交通機関等におけ

- ・ モバイルプリンタに関する調査コンサルティング
- ・ 音声認識合成市場、および音声アプリケーションに関する調査コンサルティング
- ・ アクティブシニア向けコンテンツに関する調査コンサルティング
- ・ モバイル向けデジタルニューショップに関する調査、ML座談会
- ・ ICレコーダの市場動向および市場戦略に関する調査コンサルティング
- ・ その他

※ ご依頼、お問い合わせはこちらまで → info@aqu.com

<http://www.aqu.com/hyper9999.htm>

※お問い合わせ連絡先

アクウェリアス(AQUARIUS CO., LTD.)

AQUARIUS 最先端研究所

<http://www.aqu.com/>

〒260-0027 千葉市中央区新田町 36-15

千葉テックビル 6F FLPC

TEL 043-204-1258

FAX 043-204-1316

子安、那須
